



校長だより No.2

2025.4.28

始業式から3週間が経ちました。子どもたちは、新たなクラス、学部になんとか慣れてきているように見えますが、いかがでしょうか。頑張って、折り合いを付けようとしているお子さんもいるかと思います。お休みの日には、ゆっくり休んだり、リフレッシュしたり、お子さんの状況に合わせて、お過ごしいただけるとありがたいです。

校長だよりでは、学校生活の様子や学校で意識して取り組んでいることなどについてお伝えしていきます。

今回は、教職員がお子さんの名前を呼ぶ際に気を付けていることについてです。



【館特 お子さんの呼称について】

教職員の人権感覚を磨くこととお子さんの将来を見据えたキャリア教育の観点から、学校内でお子さんを呼ぶ際に、以下のように気を付けていくことを確認しました。うっかり、親しみを込めた呼び方をしてしまう場面もありますが、意識していきます。

小学部低学年 → 「〇〇さん」「〇〇くん」(苗字、名前どちらでもよい)

小学部高学年 → 「〇〇さん」(苗字、名前どちらでもよい)

中学部 → 「〇〇さん」(苗字で)

子どもたち一人一人を尊重し、卒業後の生活を見通して支援にあたっていきます。

大人と子どもは、力の差があります。意識していないと、子どもの権利を侵害してしまうこともあります。相手の姓名に敬称を付けて呼ぶことは、相手を尊重する上で最も基本的なことです。このことは、自分も相手も大切にする「思いやり」にもつながります。

お子さんの生活年齢に応じて、ご家庭での呼び方などについても参考になさってみてはいかがでしょうか。